

# 5つのまちづくり

温泉支署を再編した統合支署の供用開始を目指します。

高齢者への取組については、介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、日常生活圏域の中で、介護に加え、医療や予防、生活支援、住まいを一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築に向け、医療機関や福祉施設などとの連携が強化できるよう支援していきます。

また、多くのまちで課題となっている空き家などの活用については、安全対策、移住施策の観点から、関係団体との協議を引き続き行うとともに、少子高齢社会をふまえた市営住宅のさらなる活用について、研究を深め、試行していきます。

## ⑤ 住み続けたいと思う地域 POWER

多くの市民が住み続けたいと思うまちを形成するためには、まず、私たち一人ひとりが、まちを知り、愛し、そして登別市民としての誇りを持つことが大切です。

先人の弛まぬ努力により形成されたまちを引き継いだ私たちが、未来に継承していくためには、まず、私たち登別市民が、まちの変遷や風土、先達の努力について共通認識を持つことが重要となりますので、市史編

さんを通じて、しっかりと地域の歴史を後世に残していきます。

また、緑あふれる街並みや誇れる景観形成を推進し、市民の皆さんが生活に潤いやゆとりを感じるができるよう、将来に渡って維持可能な都市空間のあり方を検討していきます。



▲貴重な自然環境を有する『キウシト湿原』

公共施設については、市民の皆さんが安全に、そして安心して利用できるよう、既存施設の長寿命化を進め、最大限有効活用するとともに、施設が多機能化や複合化、統廃合を検討するなど、施設のさらなる有効活用を図っていきます。

まちの活性化には、市民が活気あふれ、世代に関わらず、全ての人々が輝くまちづくりに積極的に関わる事が肝要であります。

これまでも機会あるごとに申し上げてまいりましたが、まちづくりと

は行政のみで行うものではなく、市民と行政が課題についての共通認識を持ち、共に解決策を見だし、取り組んでいくものと考えております。

市政運営にあたっては、まちづくり基本条例をはじめ、まちのあるべき姿を示す総合計画に基づき、さまざまな団体と連携してまちづくりに取り組んできたところであり、その多岐にわたる協力とまちを思う熱い思いには、言い尽くせないほどの感謝をしているところであります。

今後につきましても、さまざまな分野において、適切な情報共有のもと、この登別市がより良いまちとなるよう、不断に新たな道を模索していきます。

## おわりに

以上、ふるさと『のほりべつ』のさらなるまちづくりに臨む所信の一端を申し述べさせていただきましたが、私がまちづくりを進めるにあたり、これまでも、そしてこれからも大切にしていきたいのは、まちを思う市民の皆さんに市政へ参画していただき、より良いまちの実現に向けて話し合い、共に行動し、まちの発展を目指すことでもあります。

市政に参画していただくということは、自らが選択し、それぞれが責任を持つということでもあります。

次代を担う子どもたちが誇りを持てる地域社会を築き、継承するため、どの部分の施策を厚くするのか、どこを見直すべきなのか、厳しい決断による結果についても、皆さんと共に乗り越えていきたいと強く思っています。

先人の言葉に「和して同ぜず」という言葉があります。

まちづくりには、多くの人のさまざまな思いがあふれ、その思いを一つの形にまとめることはとても難しいことであり、時間がかかることでもあります。

私はこれからのまちづくりを進めるにあたり、この言葉をしっかりと胸にきざみ、市民力を結集した市民が愛することのできる登別市の実現に向け、揺るぎない信念と道理のもと、皆さんの理解を得ながら、ひとつひとつ課題を乗り越えてまいります。

議員の皆さん、市民の皆さんのより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。私共の所信表明といたします。

